

2-3 緑が丘駅周辺地区街づくりの課題

土地利用の課題

駅周辺商店街の活性化を図るとともに、九品仏川緑道の魅力化を図り、街全体のイメージ向上を図っていく必要がある。

市街地環境の課題

緑が丘駅の盛土構造の改修とともに区道の改良を行い、街の分断感の解消や道路交通機能の向上に向けた対応策の具体化が必要である。

駅北側の区道を呑川本流緑道とアクセスし、みどりのネットワークと一体となった駅周辺の歩行者動線を形成し、駅周辺の歩行者動線のバリアフリー化を進めていく必要がある。

都市交通の課題

駅施設のバリアフリー化が実施されていないことから、エレベーターや多機能トイレ等、バリアフリー施設が必要である。

バス路線（渋33，多摩01）があるものの、バス停が駅から離れており利便性が低く、交通結節機能の強化が必要である。

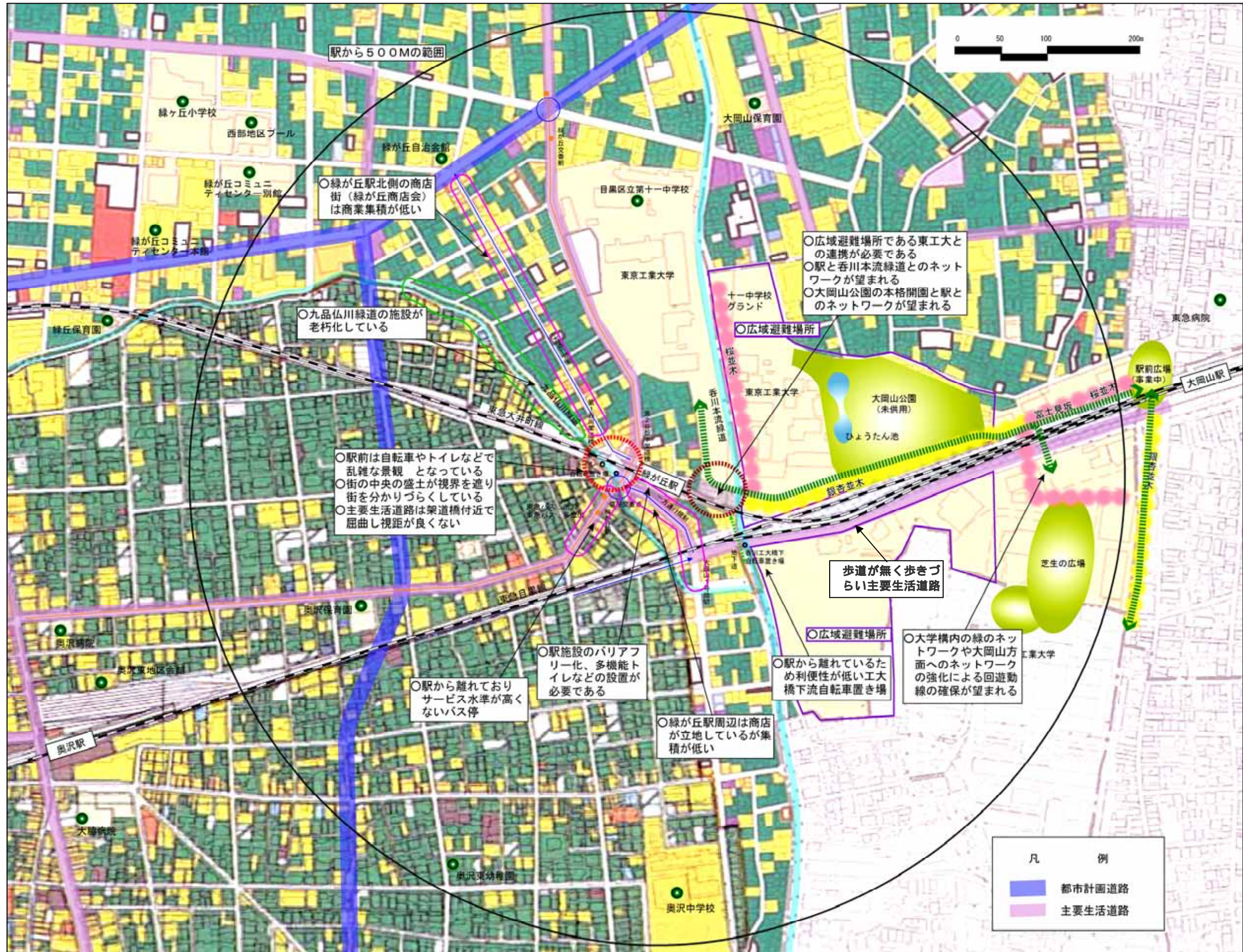
駅前の自転車置場は、区域が明確でなく緑道空間を自転車が占拠しており、駐輪場の再配置により利用者サービスを向上させるとともに、駅前景観の向上を図る必要がある。

大学との連携

緑が丘駅北側では、区道と東京工業大学との間にある門扉により交通が遮断されているため、門扉の開放など大学と地域の連携強化を進めていく必要がある。

大学との連携強化を契機に、広域避難場所としての機能向上を図るとともに、大学敷地内のみどりと九品仏川緑道・呑川緑道との緑のネットワークの形成を進めていく必要がある。

図 2.7 緑が丘駅周辺の課題



3 緑が丘駅周辺地区街づくりの目標と方針

緑が丘駅周辺地区の現況や課題、上位計画にみる街づくりのあり方を踏まえ、駅及び駅周辺の街づくりの目標と方針を以下のように設定する。

3-1 街づくりの目標設定

(1) 目標1；安全・安心で快適に住み続けられる街づくり

駅及び周辺市街地のバリアフリーの実現

福祉のまちづくり推進地区における「主要経路」のバリアフリーを進めるため、駅周辺における公共公益施設へのバリアフリー経路の整備を推進する。
駅施設の改良により、誰でも利用しやすいバリアフリー化を実現し、安全で円滑な駅及び周辺地区の移動経路を確保する。

駅をランドマークとした地区生活拠点の魅力の向上

地区生活拠点である緑が丘駅周辺地区の魅力ある景観形成を目指す。
ランドマークとなる駅舎や大学との連携により、緑が丘にふさわしい文化施設等の整備により地域の魅力を向上させていく。

交通結節機能の強化

駅の改良に併せて主要生活道路の駅前部分の整備を進め、路線バスのバスベ이를整備し、乗り換え利便性を向上させる。
駅周辺の放置自転車対策として、駅高架下を活用した駐輪場整備を進める。

防災街づくりの推進

東京工業大学一帯の広域避難場所にいたる経路を確保し、安全な街づくりを進める。

(2) 目標2；身近なみどりを守り育てる街づくり

環境・水とみどりの街づくりの推進

九品仏川緑道と呑川本流緑道のクロスポイントとなるみどりの拠点づくりや、駅と呑川の連携確保によりみどりのネットワークの拠点としていく。
東京工業大学内の緑地や並木道をみどりのネットワークとして連携し、緑が丘駅から大岡山駅と繋がる広域の回遊動線やみどり豊かな市街地環境づくりを進めていく。



街づくりのトリガープロジェクトとなる駅・まち一体の整備

駅改良によるバリアフリーの早期の実現と“街”のランドマークを整備する。
駅のバリアフリー化と一体的に駅周辺でのバリアフリーネットワーク化を推進する。

自転車駐車場や自由通路の先行整備による交通結節機能強化及び憩いの空間整備などを街づくりと一体で推進する。

将来のめぐろ 風景スケッチ (イメージ)



◆住みやすい街

住みよい住環境が守られ育まれた街
多様な世代が住み続け、交流のある街
暮らしの中で不安や危険を感じない街
街かどに笑い声が弾む

◆暮らしやすい街

屋外に出たくなる、出歩きたくなる街・みち
歩いて楽しめる街、歩いて暮らせる街
威圧感が無く、親しみや愛着を感じる街並み



◆個性ある街

歴史が継承され、地域の個性として活かされている街
人通りの絶えない、賑わいのある商店街
街の個性を語りあう人々



◆自然と触れあえる街

みどり豊かで、四季の移ろいを感じられる街
きれいな空気と水のある街
たくさんの生きものに出会い、輝く子どもの笑顔

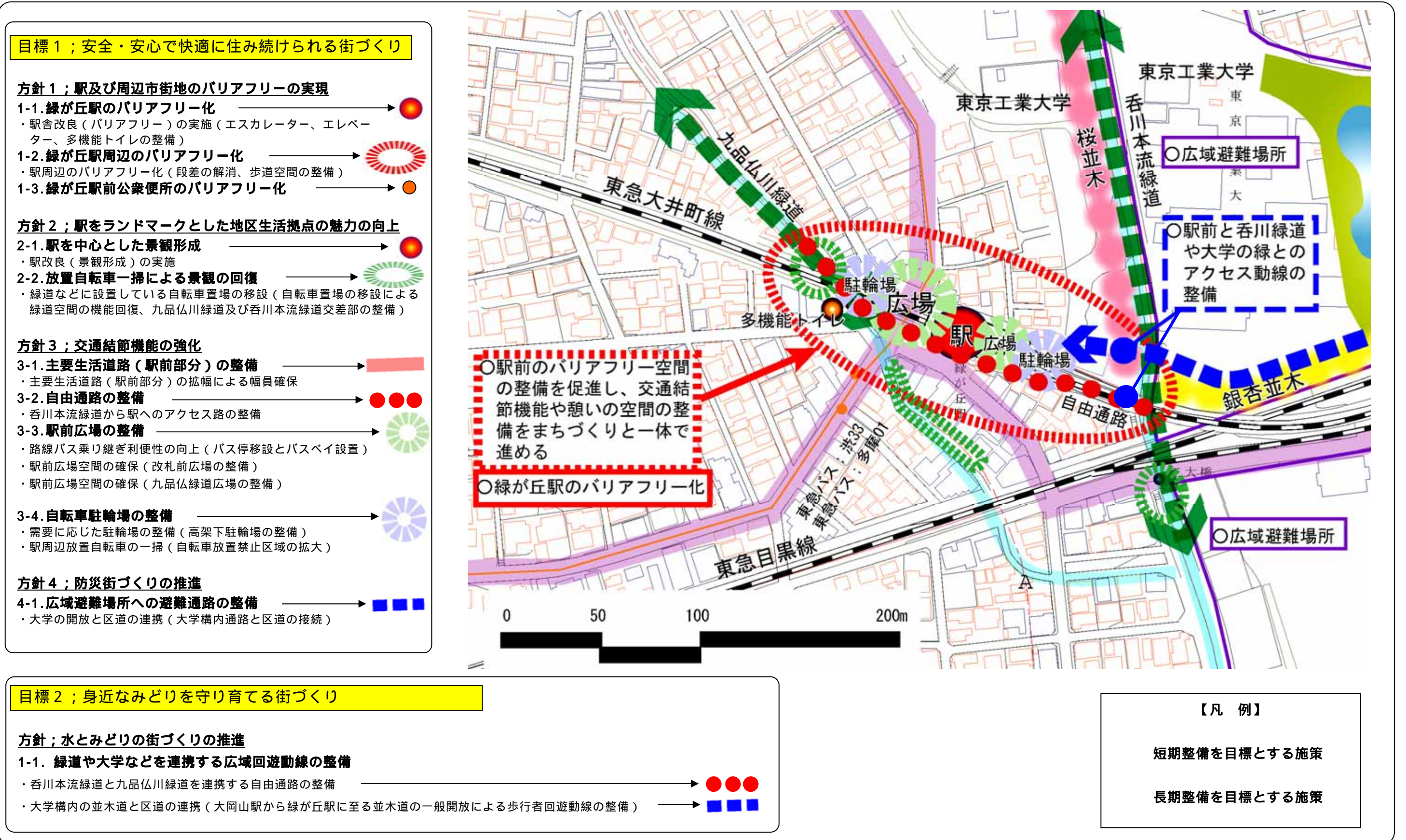


※区民意見などより作成

3-2 街づくりの方針

街づくりの目標を具体化していくための方針を以下のとおり設定する。

図 3.1 緑が丘駅周辺地区整備方針図



4 緑が丘駅周辺地区整備計画

4-1 みどりと歩行空間のネットワーク計画

緑が丘駅周辺地区では、大岡山駅周辺地区の街づくり構想と連携を図りつつ、「みどりと歩行空間のネットワーク計画」を以下のように設定する。

① みどりのネットワーク

- 九品仏川緑道のみどりと呑川緑道のみどりの連携を強化していくため、緑が丘駅高架下を活用した自由通路の整備を進め、その連続性を高める。
- 駅の改良に合わせた駅前広場空間の整備を行い、みどりのスポットを形成することで、緑道ネットワークにアクセントを与えていく。
- 東工大キャンパスとのアクセスの改善により、大学内のみどりの資源との連携を強化し、緑が丘駅周辺に「大学のみどり」のにじみだし効果を誘導するとともに、大学構内道路を経由した大岡山駅～環七へのネットワークの形成を図る。

② 歩行空間のネットワーク

- 駅の改良に合わせて駅前広場を整備し、ゆとりある歩行空間の拠点を整備する。
- 駅前部分を改修し、南北方向の幅の広い歩行空間を整備する。
- 緑が丘駅高架下を活用した自由通路の整備により、呑川緑道から駅周辺地区との歩行空間ネットワークを形成する。
- 歩行空間の整備にあたっては、バリアフリーに配慮する。

図 4.1 緑が丘駅周辺地区のみどりと歩行空間のネットワーク図

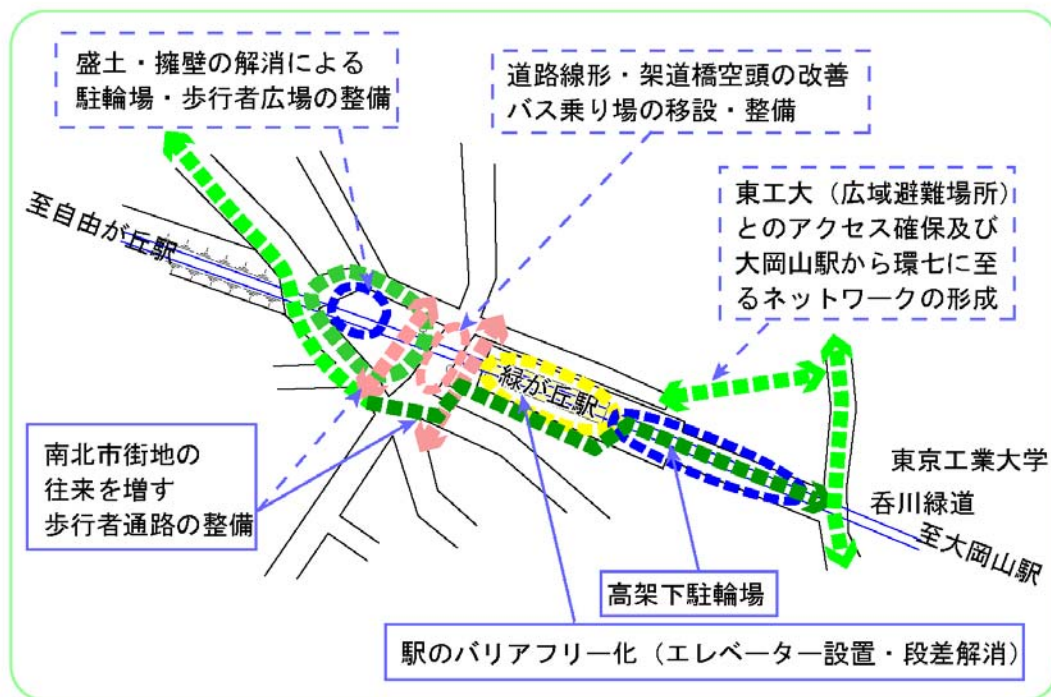
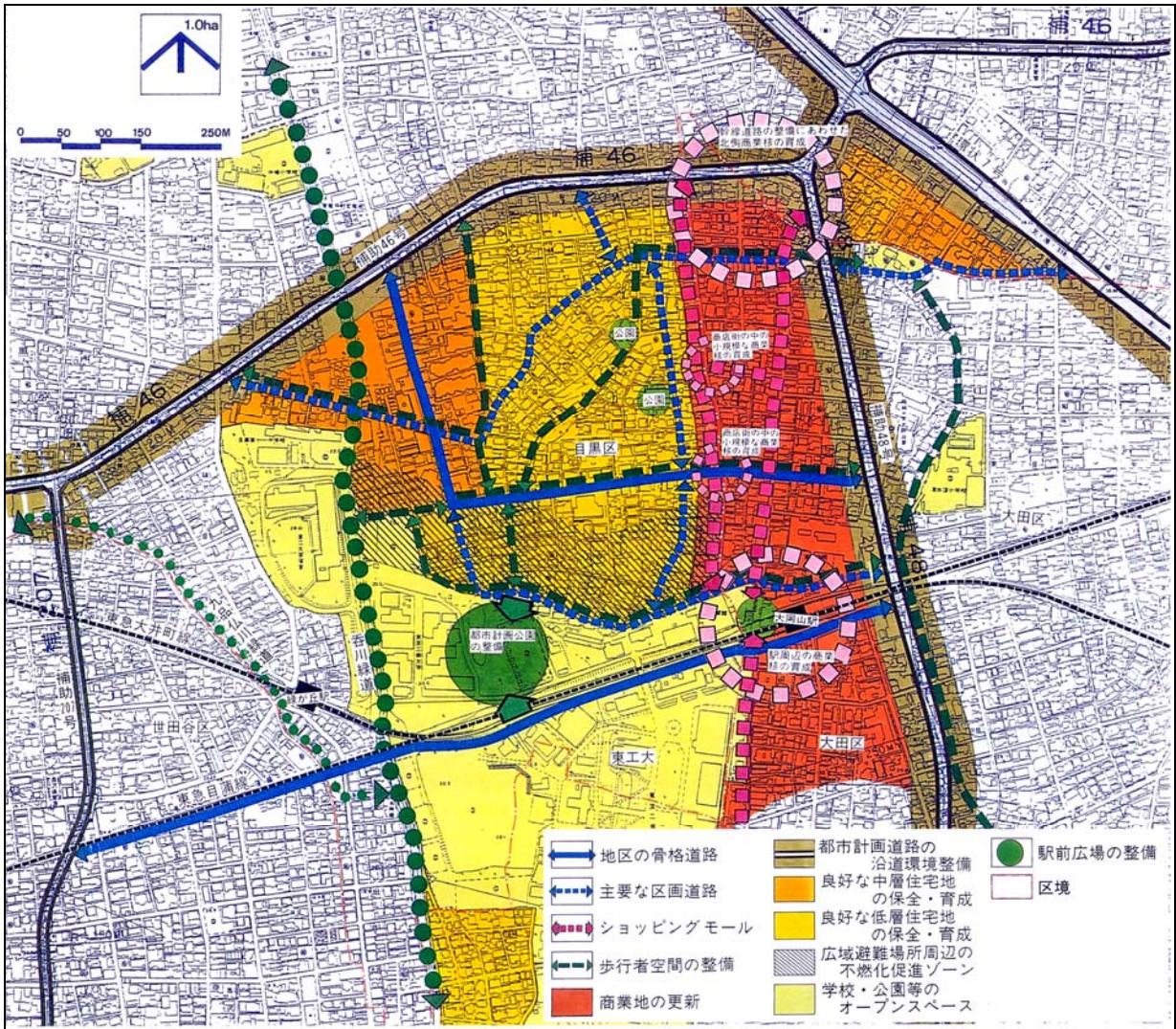


図 4.2 大岡山駅周辺地区の街づくり構想

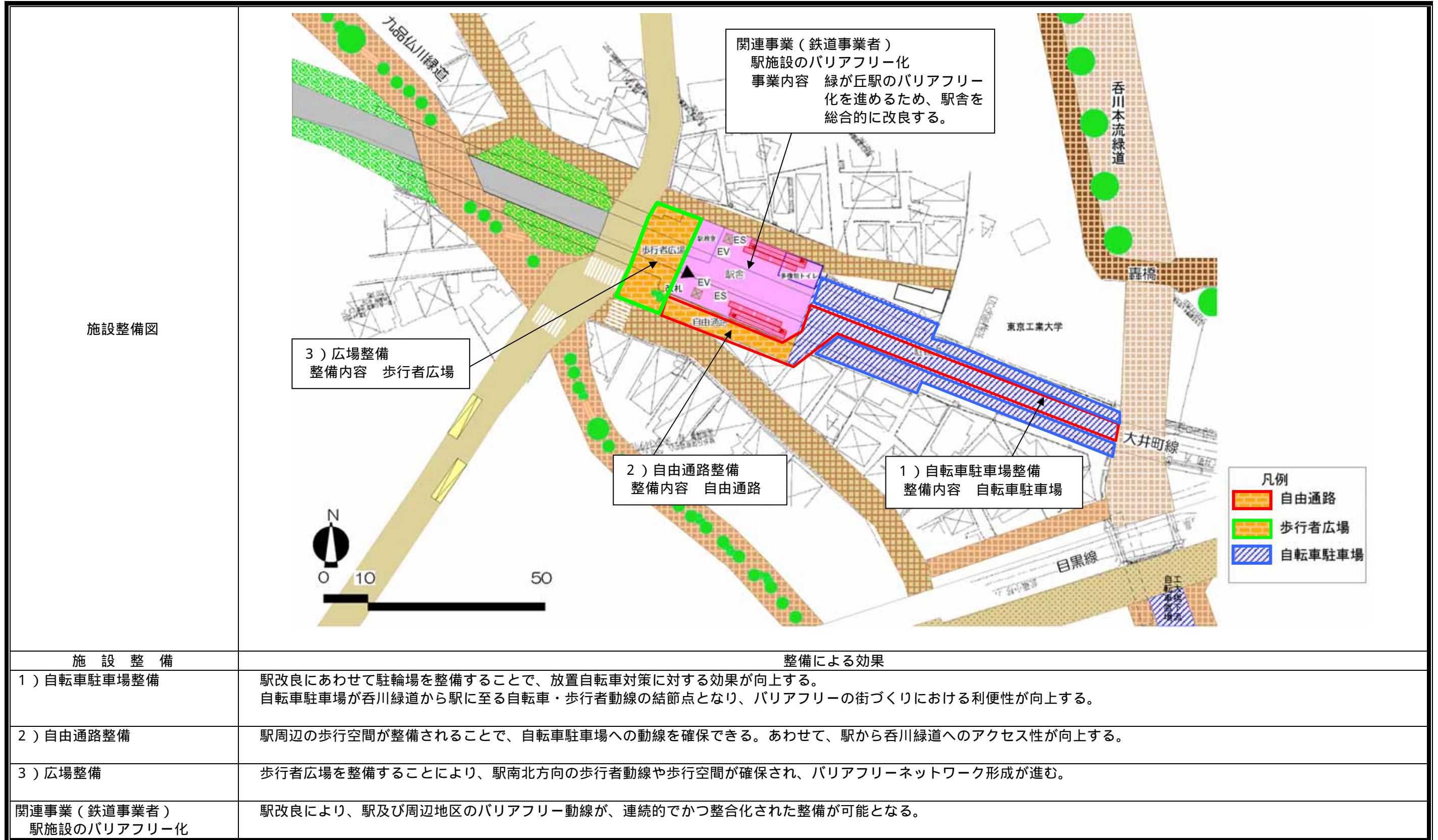


大岡山駅周辺 ～街づくりの目標～	
● 住み良い街づくり	・ 良好な住環境を大切にしながら、立地条件を生かした都市型住宅を適正に誘導し、多様な住宅が調和した安定性の高い住宅地。
● 緑と文化につつまれた街づくり	・ 住宅地の緑や斜面緑地、大学キャンパス、呑川緑道などの緑と文化の資源を生かし、さらに相互に連携を図り、緑を基調にした文化性の高い街づくり。 ・ 特色のある歩行者の空間による「歩くことの楽しい街づくり」。
● 交通基盤が整った街づくり	・ 駅前広場の整備と賑わいのある駅前づくり。 ・ 通過交通と居住者交通を分離した、安全で利便性の高い道路づくり。 ・ 建物の建て替えに合わせた狭隘道路の改善による安全な街づくり。
● 安全な街づくり	・ 街の不燃化・耐震化による、地震や火災に強い安全な街づくり。 ・ 広域避難場所である東工大キャパスへの安全な避難ルートの整備。 ・ 歩行者空間の充実による人と車が安全に共存できる街づくり。
● 賑わいのある街づくり	・ 地域の人々から信頼され親しまれる商店街づくり。 ・ 買い物道路、街角広場の整備による賑わいのある商店街づくり。 ・ 大田区側商店街と連担した回遊性の高い商店街づくり。

4-2 施設整備計画

緑が丘駅周辺地区における駅前広場等公共施設の整備については、街づくりの目標と方針及び歩行空間のネットワークの考え方を踏まえて整理する。施設整備による効果は、表のとおりである。

図 4.3



(1) 自転車駐車場整備

整備方針 鉄道高架下に自転車駐車場を整備する。

整備内容 自転車駐車場

緑が丘駅周辺地区の放置自転車対策として、需要に応じた駐輪場の整備を進める。駐輪場台数は、目黒区放置自転車対策基本計画に示された280台を整備目標とする。

事業者 区

目標年次 平成 22 年度

(2) 自由通路整備

整備方針 緑が丘駅周辺のバリアフリー化の形成を進める。

整備内容 自由通路整備

駅前に自由通路を整備することにより、駅周辺のバリアフリー化を進めつと共に高架下に設置される駐輪場への動線を確保する。あわせて、呑川緑道へのアクセスを向上させる。

事業者 区

目標年次 平成 22 年度

(3) 広場整備

整備方針 緑が丘駅のバリアフリー化を進める。

整備内容 歩行者広場

高架下空間を活用した広場を駅前に整備する。

事業者 区

目標年次 平成 22 年度

(4) 駅施設のバリアフリー化(関連事業)

整備方針 緑が丘駅のバリアフリー化を進める。

整備内容 緑が丘駅のバリアフリー化を進めるため、駅を総合的に改良する。

駅舎の改良、既存高架橋の補修、エレベーター及びエスカレーターの設置、多機能トイレの整備、バリアフリー対応の券売機などの設置。

事業者 鉄道事業者

目標年次 平成 22 年度

5 整備の進め方

今後、緑が丘駅周辺都市再生交通拠点整備事業をすすめるにあたり、国・都から支援を得ると共に東京工業大学と連携しながら、鉄道事業者の駅舎改良事業と一体的に事業展開していくこととする。

なお、緑が丘駅周辺地区の包括的な交通バリアフリー整備計画^(注1)は、緑が丘駅周辺都市再生整備計画との整合を図りながら、地元住民組織や関係事業者との連携のもとに策定していくこととする。

注1：緑が丘駅周辺地区交通バリアフリー整備計画は、平成19年2月に策定されています。